

第3部

エンジニアの未来と新しいキャリアパス



WeING

Dxサービス推進室
室長

恩田 実

IT人材からAI人材へ新しい職種が急務！

01

ミスマッチが拡大！

単純なプログラマーは余剰する。
一方でAIを使いこなし、ビジネス
設計ができる「**超上流エンジニア**」不足

- AIツールへ移行過渡
- リスキリング加速
- **VibeCoding**導入

2026年～
IT人材質の選別時期

02

高度専門人材の争奪戦！

設計力、倫理的判断、対人交渉力など
人間しかできない能力が重視される

- AIエージェント開発自動化
- AI企業と人手企業の格差
- **VibeCoding**普及？

2028年～
作るから使う時期

プログラマー
不足という概
念が消滅する
かもしれない

03

自らシステム内製化！

1人のエンジニアが10人分の仕事をこなす



2030年～
AIによる生産向上時期

エンジニアのスキル変革(超上流エンジニアへ)



従来スキル	2030年に求められるスキル	
コーディング	AIプロンプト オーケストレーション <small>複数のシステムやサービスを連携させ、複雑なタスクや業務の流れ(ワークフロー)を自動化する仕組み</small>	書くスキルより、AIに書かせるそれを統合する力が重要
設計書作成	ビジネスデザイン UX設計	「どう作るか」より「何のためにどう使うか」の設計
保守・運用	MLOps ロボティクス保守	AI劣化(精度低下)を防ぎ物理デバイスを管理する力
PM(管理)	コンサルティング ファシリテーション	顧客の潜在ニーズを引き出し内製チームをリードする力

◆ 『超上流エンジニア』とは何者なのか？

システム開発における『超上流エンジニア』とは、
「技術がわかるビジネスデザイナー」ではないでしょうか。

一般的な「上流工程(要件定義・設計)」よりもさらに前段、
つまり「そもそも何を解決するためにシステムを作るのか？」
という経営戦略やビジネス企画の専門家であり、
従来のエンジニアが「How(どう作るか)」にフォーカスしている
ことに対し、超上流エンジニアは「Why(なぜ作るか)」「
What(何を作るか)」にフォーカスしていると言えます。

◆ 『超上流エンジニア』の定義とは？

項目	定義
立脚点	IT・テクノロジー側からビジネスを見る
主な関心ごと	技術的に実現可能か、IT投資として適正か
役割	「ITでビジネスをどう変えるか」の設計
責任範囲	IT戦略、システム化構想、RFP作成

◆ 『超上流エンジニア』のスキルセットとは？

1. ビジネスリテラシー

財務諸表の理解、マーケティング、業界特有の商習慣などの知識。

2. 抽象化・具体化能力

経営陣の「フワッとした理想」を、エンジニアが「実装できる仕様」に翻訳する力。

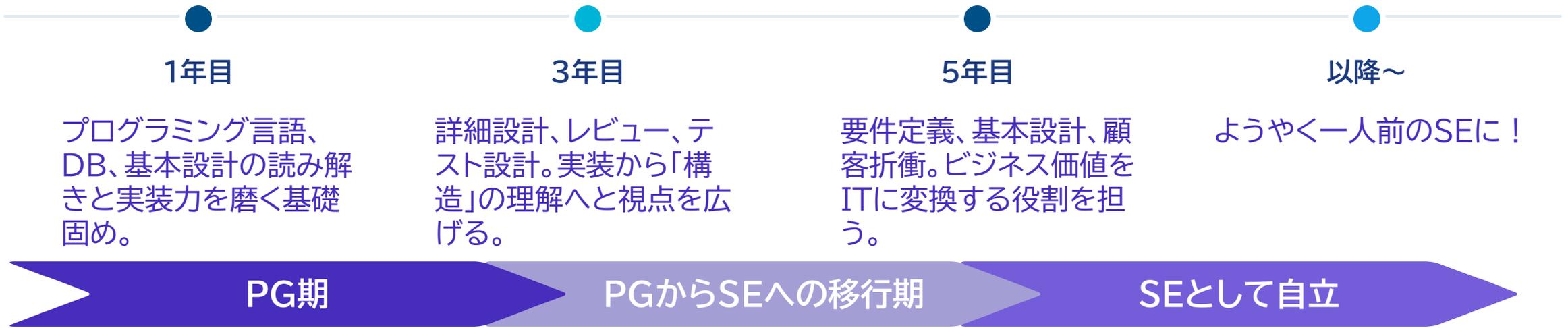
3. コンサルティング能力

顧客の要望をそのまま受け入れるのではなく、潜在的な問題を指摘する「聞く力」と「提案力」。

4. ITアーキテクチャの知識

どのような技術(クラウド、AI、SaaSなど)を使えば、低コストかつスピーディーにビジネス価値を生めるか判断できる知識。

◆ 『超上流エンジニア』のキャリアパスは？



ちょっとまって、まだこの先に超上流エンジニアへの道のりが・・・



IT人材からAI人材へ新しい職種が急務！

01

ミスマッチが拡大！

単純なプログラマーは余剰する。
一方でAIを使いこなし、ビジネス
設計ができる「**超上流エンジニア**」不足

- AIツールへ移行過渡
- リスキング加速
- **VibeCoding**導入

2026年～
IT人材質の選別時期

2030年までには 間に合わない！

人間しかできない能力が重視される

プログラマー
不足という概念が
消滅する

03

自らシステム内製化！

1人のエンジニアが10人分の仕事をこなす



2030年～
AIによる生産向上時期

VibeCodingは、エンジニアにとっては革命的！

プログラム開発の生産力を圧倒的にアップ・・・これは嬉しい！

要注意

お客様はランニングコストを負担しますか

VibeCodingでは 解決できない！

超上流
エンジニア
簡単に育たない

システム設計
スキル必要
関わる費用
変わらない

超上流
エンジニア
簡単に育たない

設計通り
VibeCode
開発できる？
品質低下

リティ

アンス



エンジニアから 超上流エンジニアへ！



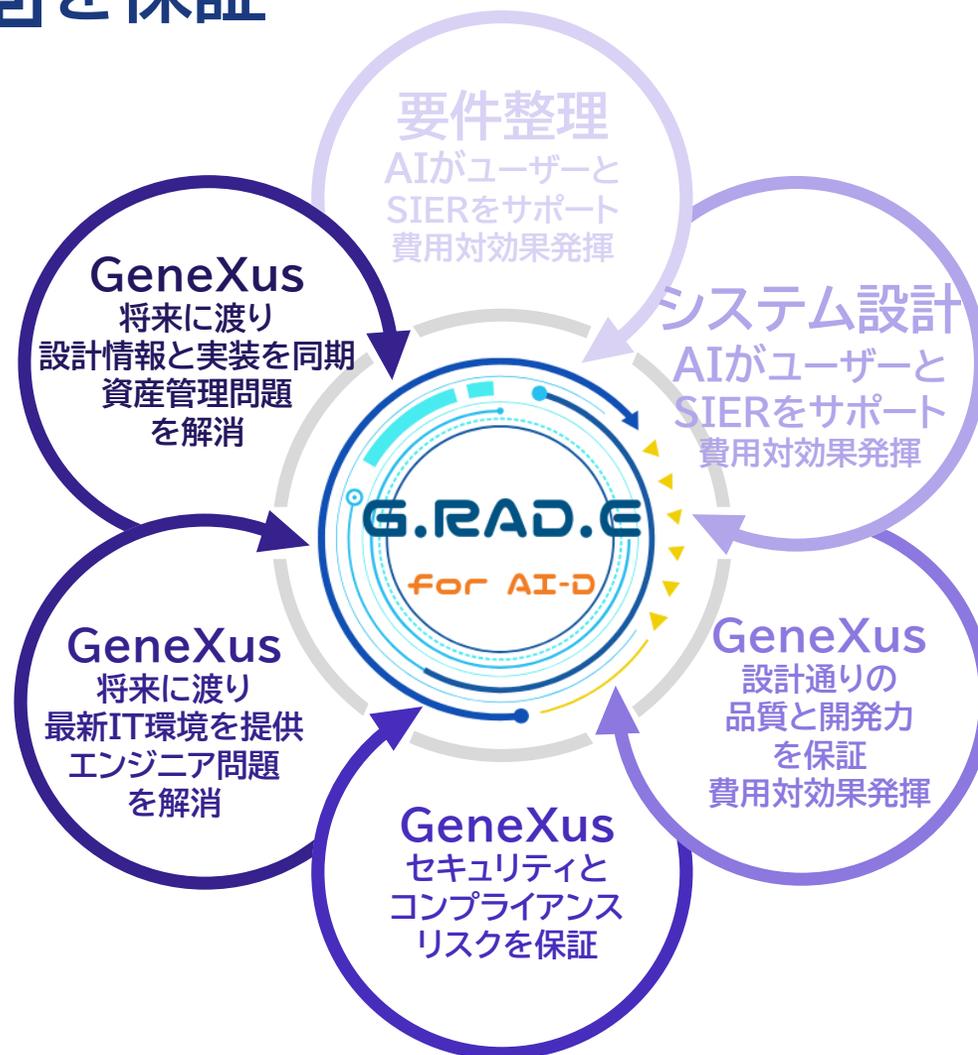
活動フェーズ	従来型 エンジニア	次世代 超上流エンジニア
要件定義	指示された機能を聞き出す	ビジネス課題を「問い」に変える
設計・実装	自らコードを書く(数週間)	AIを駆使し数時間で試作を作る
価値の源泉	「成果物の量・正確さ」	「ビジネス成果の創出スピード」
AIとの関係	仕事を奪うかもしれない「脅威」	自身の能力を拡張する「最強の部下」



G.RAD.E を自分の武器とする！
for AI-D

AIが『何を創るか』を導き LowCodeが『正しく動く』を保証

直感的なAI右脳と
論理的なLowCode左脳を
合わせ持つ超上流AIエンジニア



我々が提案するキャリアパスの最適解！

1年目

G.RAD.E for AI-D
で生成AI×LowCodeによる、
新たなシステム開発手法
を習得する！

プログラミングはGFAにお任せ。
要件定義、設計領域において、
いかに生成AIを活用するかを
実際の開発現場で実践&習得する。

2027年

2年目

G.RAD.E for AI-D
を活用し、顧客と対話しながら
システム構築を実践！

設計やプログラミングはGFAにお任せ。
顧客との対話にフォーカスし、
コミュニケーション能力、対人交渉力、
倫理的判断など、人間にしか
できない能力を磨く。

2028年

3年目

G.RAD.E for AI-D
により、「超上流エンジニアの
能力」と「高品質・高生産の
開発力」を手に入れ、
劇的な環境変化にも対応！



2029年



『真の武器』を手に入れ
短期間で『超上流エンジニア』
の能力を手に入れましょう！

劇的な環境変化に対応するために、
「G.RAD.E for AI-D」を活用し、
新たなキャリアパスを形成しよう！
を、一緒に実現していきましょう！

AI時代の新しいキャリアを、
共に描き始めましょう！



ご清聴ありがとうございました。

WeING